

みなとが支える 私たちの暮らし life

Ports
gateway
to the world

世界有数の 貿易大国・日本に 集まる品物は、 海をこえてやってくる

わが国は、GDPが世界でトップクラスという経済大国です。天然資源が乏しく、国土もさほど広くないわが国が、このように高いレベルの経済活動を維持するためには、貿易が必要不可欠です。

英語では、輸入をIMPORT、輸出をEXPORTと言いますが、どちらにもPORT、すなわち“みなと”という単語が入っています。この言葉が示す通り、みなとは古くから世界各国の貿易にとって、大きな役割を果たしてきました。

とくに、国土を海で囲まれたわが国では、輸出入品のほとんどすべてがみなとを経由して世界の色々な国々とやり取りされており、みなとなしでは貿易が成り立たないのです。

多くの輸出入品を扱うみなとは、貿易の要として、わが国と世界を結んでいます。

貿易大国・日本

日本は、世界のあらゆる地域と貿易を行っており、その貿易量は、一年間で約11億トンにのぼります。この11億トンのうち、じつに99.7%は港湾貨物が占めており、また、貿易額で見ても全体の70%を港湾貨物が占めています。つまり、わが国に輸出入される貨物は、そのほとんどすべてが港湾を経由しているのです。世界有数の貿易大国であるわが国にとって、みなとはまさに貿易拠点といえます。



出典:国土交通省港湾局計画課調べ(2000年)

わが国の一年間の貿易量



資料:港湾統計年報 平成12年

国民一人あたり約9トン

わが国の年間貿易量を国民一人あたりに換算すると、一年間で約9トンになります。私たちは、ふだん気づかない間に2トントラック4.5台分もの品物を世界とやりとりしているのです。



資料:国土交通省港湾局調べ(2000年値)

みなとを支える人々①

税関

税関は輸出入する貨物についての検査を行い、許可をしています。特に輸入貨物については、関税を決定、徴収するほかに、麻薬などの密輸品が国内に入ってくるのを文字通り水際で防いでいます。



海上輸送のメリット①

海上輸送は一度に大量のモノを運ぶことができるため、価格に占める運搬費が安くてすみます。例えばオーストラリアから牛肉を輸入した場合、オーストラリアから日本までの海上輸送費は1トン当たり約12800円。日本のみなどから精肉店までのトラックでの陸上輸送費は1トン当たり14500円です。世界の国々から輸入されるモノが安く手に入るのは海上輸送で運ばれているおかげです。

1トンの貨物の運搬費の比較



※港湾諸手続、港湾荷役、倉庫に要する費用は含まず

資料:国土交通省港湾局調べ(平成11年ヒアリングによる)

海の主役たち



タンカー
大切なエネルギー資源である原油を運ぶ船。貨物船のなかでは最も大きく、50万トンを超える大型船もあります。主な輸入先は中東や東南アジアです。



コンテナ船
コンテナ貨物を積む船で、貨物船の中では最速を誇っています。大量の貨物を輸送できるため、海上輸送の主力として大活躍しています。



客船
船といえばまず思い出すのが旅客を輸送する客船。優雅な船旅を楽しむ日本船籍の豪華客船も世界の海で活躍しています。